

菅平高原 24 実施報告書

ロゲイニングチャレンジ実行委員会 & Team 白樺

実行委員長 樺澤 秀近

2010年9月5日

協力

菅平高原 ホテル白樺荘

日本ロゲイニング協会

パルコール 嬬恋スキーリゾート

1. 目的

菅平高原では2006年から日本のロゲイニングでは最長の競技時間となる12時間の競技を開催してきた。しかし海外でおこなわれているロゲイニングの標準となる競技時間は24時間である。以前から運営者・競技者それぞれから「菅平高原大会を24時間に」という声はあったものの、あまりにもスケールが大きくなってしまったため24時間の開催には手を出せずにいたが、12時間の開催での経験を生かしてそろそろ24時間を検討する時期ではないかと考えた。

しかしいきなりオープンに競技者を募集してしまうと十分なサポートができなかったり、トラブルに対応できなかったりする可能性がある。そこで今回は実験レースとして十分なサポートが期待できない状況を理解していただける上級者に限定して開催することにした。

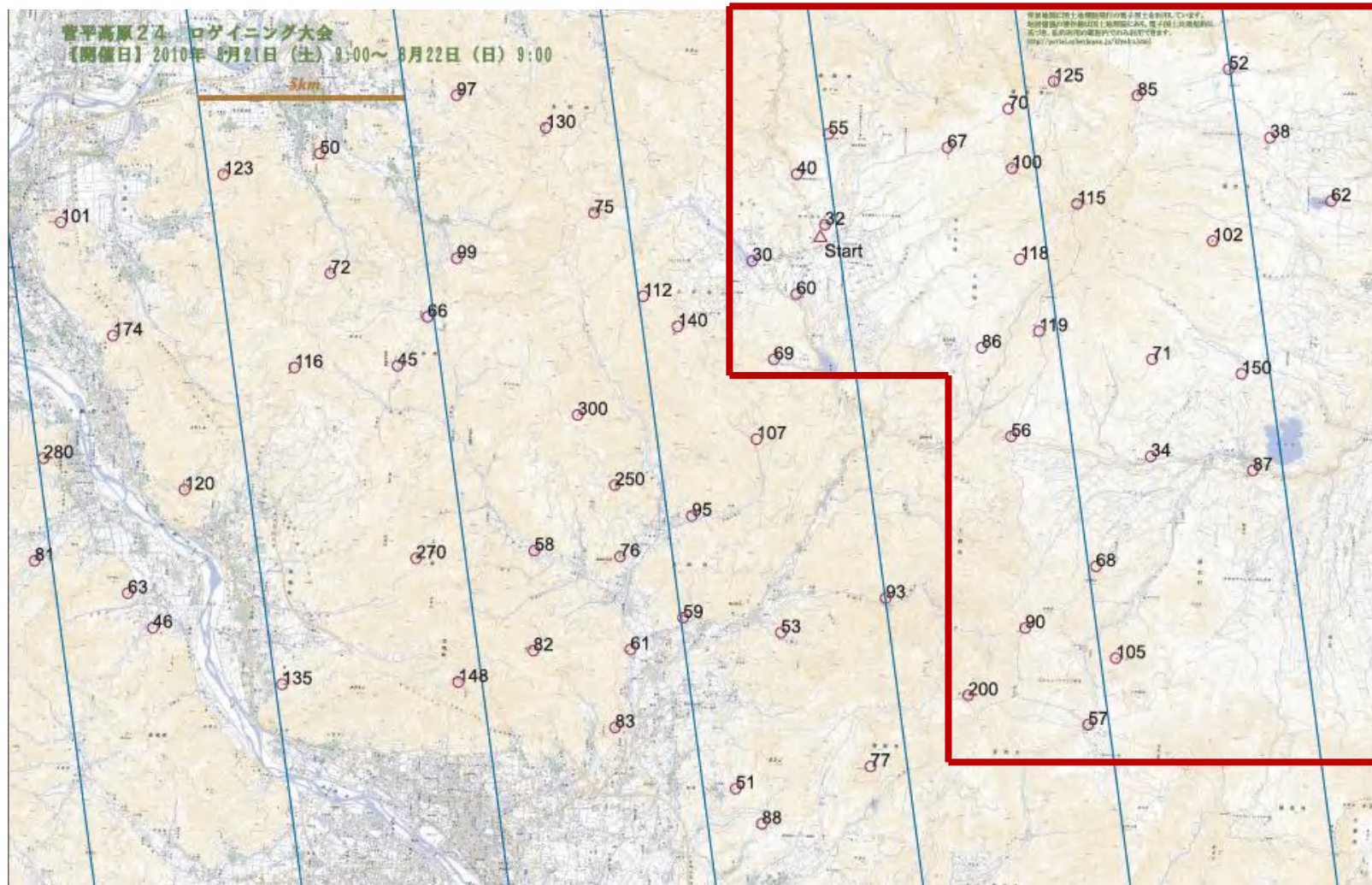
2. 本戦と実験レースの違い

今回の実験レースと本番の24時間競技でおこなおうとしている方法との異なる点は下記の通りである。

	実験	本番
コントロール	コントロールには何も設置せず競技者が通過時間を記録し自己申告する。	オリエンテーリングフラッグを設置しパンチで通過チェックをおこなう。通過時間は自己申告か？（参考までに記録してもらおう）
地図	従来の12時間の部で整備した部分はCADで作成した地図。それ以外の部分は国土地理院の地形図を使う。25000分の1、A3、11枚。	CADで競技用地図を作成する。50000分の1、A3、3枚程度？部分的に25000分の1の詳細図を添付するかもしれない。
エイド	最低限のサポートとして時間を限定して設置。 シュナイダーゲレンデスキー小屋（荷物置き場） パルコール孺恋スキー場（18:00～6:00） 新地蔵峠（真田町）（12:00～21:00）	本番では以下の4か所をエイド・仮眠の場所として検討。 シュナイダーゲレンデスキー小屋（荷物置き場） パルコール孺恋スキー場 新地蔵峠（真田町） 地蔵峠（群馬県孺恋村）

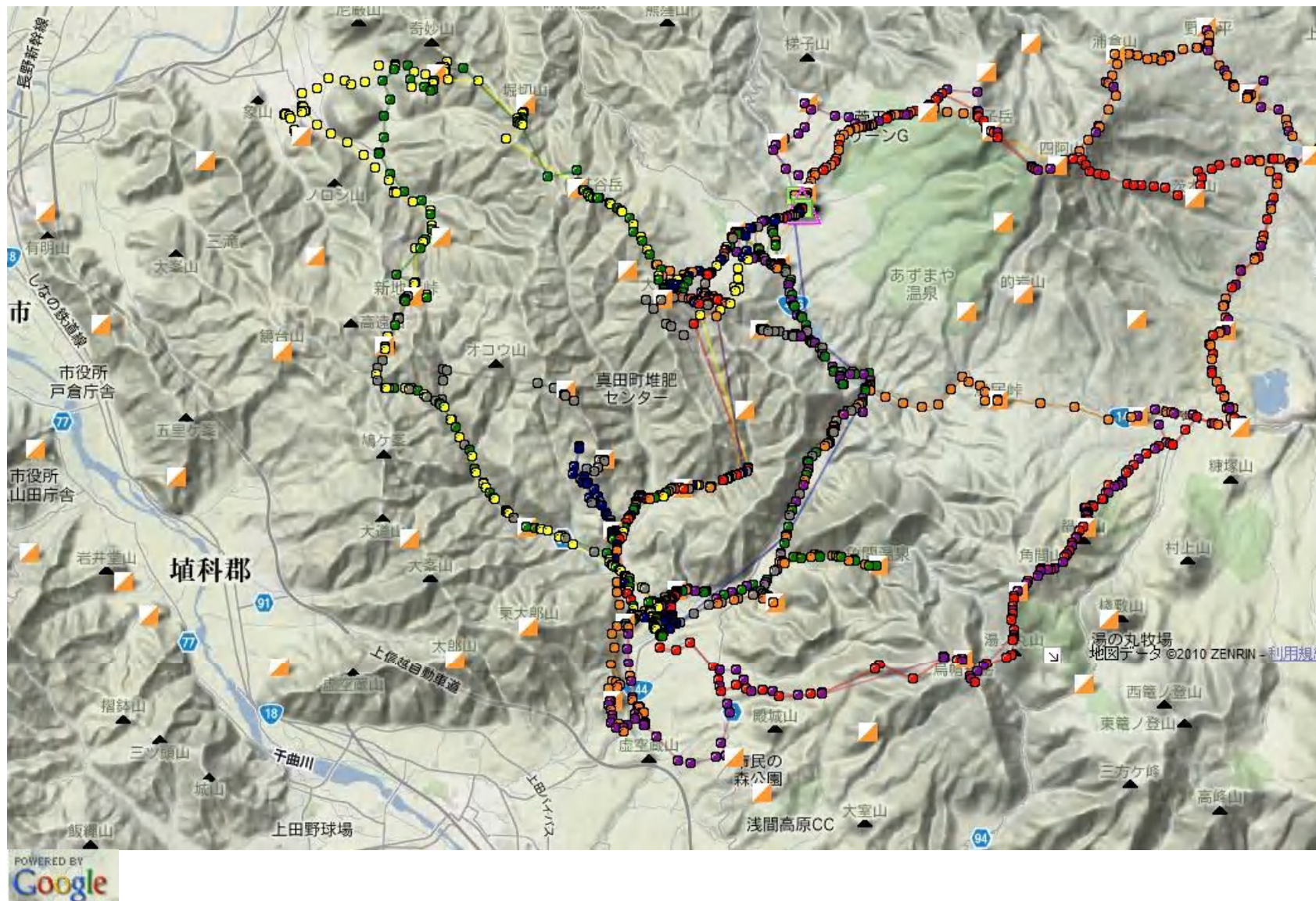
3. 競技範囲

赤枠内が2010年のロゲイニングチャレンジ菅平高原大会12時間の部の競技エリアである。この範囲を12時間でも全てまわれないことを考えると、今回の24時間のエリアは少々広くしすぎたようだ。実験レースだからこそ思い切り広くしてみたのだが東側半分をまわるチームと西側半分をまわるチームにきれいに分かれてしまった。(次項、GPSトラッキングで各チームのコースを示している)



4. GPS トラッキング

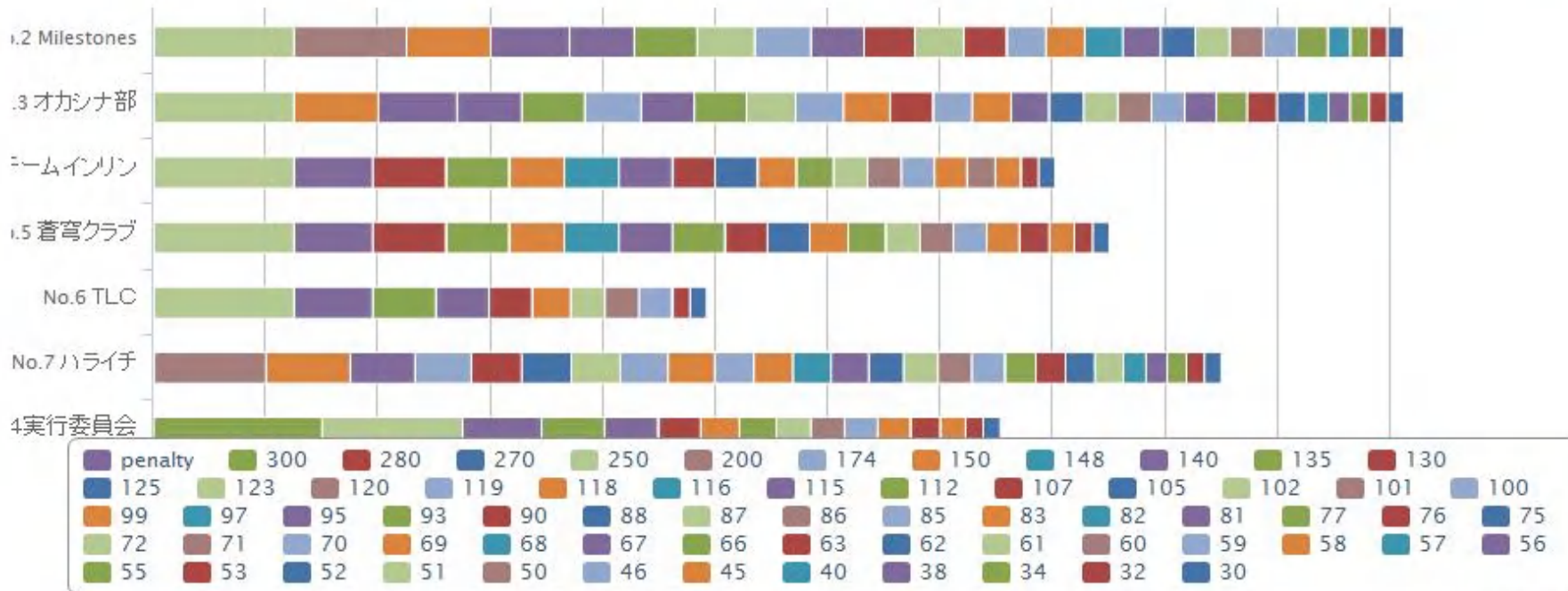
今回はNTTドコモのGPS携帯電話を利用してGPSトラッキングをおこなった。山深い場所以外ではリアルタイムに競技者の動きを見ることができ、競技者以外に見てもらい、運営・安全のために利用するというどちらの面でも有益なツールであることが確認できた。



GPSトラッキングを利用した成績速報を下記のように出すことができる。コントロールの位置座標（経度・緯度）から0.01度（約1km）の範囲を通ったチームに得点を加算するという方法でおこなっている。これ以上接近した場合に加算するようにすると選手の位置情報を5分間隔でしか取得していないためコントロール付近で休憩したりしないと加算できなくなってしまう。また電波圏外のコントロールの場合は位置情報が取得できず加算することができないという問題点がある。

2010-09-04 22:26:43現在

菅平ロゲイン24 チーム得点(Live)



Highcharts.com

GPSトラッキングによる位置情報を使用して、コントロール付近を通過したと思われる場合に得点を加算しています。GPSによる位置情報取得は携帯電話で行っていますので、携帯電話の通話圏外等のコントロールは得点が加算されないこともあります。従いまして、正式な成績ではないことにご注意ください。

5. ブログを利用した選手による実況中継



* ハライチ

角間峠90
#7ハライチ



[shirakaba](#) [2010-08-21 21:08](#) [菅平高原 2.4](#) [TB\(0\)](#) [CM\(0\)](#)

* 菅平高原 2.4 実行委員会：地藏峠

17時50分に300小池ゲット！20時42分地藏峠エイド到着。



[shirakaba](#) [2010-08-21 20:50](#) [菅平高原 2.4](#) [TB\(0\)](#) [CM\(0\)](#)

* Milestones 90角間峠

峠19:54夜の山道は大変だ！番外

* カレンダー

08	2010/09							10
S	M	T	W	T	F	S		
			1	2	3	4		
5	6	7	8	9	10	11		
12	13	14	15	16	17	18		
19	20	21	22	23	24	25		
26	27	28	29	30				

* リンク

[管理画面](#)
[新しい記事を書く](#)

* カテゴリー

[未選択 \(0\)](#)
[菅平高原 2.4 \(88\)](#)

* 最新コメント

[うまくサムネイル画像が作られなかつたみたい](#)
[08/22 ログ協会]
[無題](#)
[08/22 たいすけ]
[パルコール遠恋](#)
[08/21 たいすけ]
[無題](#)

実況中継用のブログを用意し、競技者自身が現在の状況などをレポートしながらレースをおこなった。本来であればチームの情報を他のチームに教えてしまうということは、上位を競っていた場合に不利になることも考えられる。しかし24時間という非常に長い時間の中では他のチームがどうしているのか知ることによって励みになったり楽しめたりもする。

本番でも他のチームに情報を流したくないというチームは実況せずに、任意でレポートしてもらいながらレースをおこなうことを検討したい。

レポートの投稿方法は携帯電話からメールでブログ投稿用のアドレスにメールを送信するだけであり、ストレスなく実施することができた。

7. 課題

実験レース後の検討課題。

課題	対策
地図・説明と現場の異なる場所があった。	下見でもすべての場所を確認できるわけではないが、本番ではフラッグの設置をおこなうため、フラッグの場所を特定するために影響のある変化は事前に通知することができる。
菅平高原を中心にいくつかループが作れるようなコースにしてもよいかも。シュナイダーゲレンデスキー小屋にデポした荷物を効果的に使えるため。	
補給に使えるお店の営業時間がわかるとよい。	主に真田町のコンビニ・スーパーの営業時間の記載。コンビニは24時間のため問題ないが、菅平高原には24時間営業ではないコンビニもある。
97のコントロールが切り立った崖の上だった。	「でも、ありだと思う」とのコメントをいただいているが、誰でも参加できるレースとして実施する場合は、そのような場所はなくす。
「町民以外立入禁止」「関係者以外立入禁止」の看板がある山が多くあるが、そういった場所をすべて排除してしまうとレースとして面白くない。広大な競技エリアのすべての通行許可(可否)の確認をするのは現実的ではないがなにかよい知恵はないか？	マツタケシーズン以外ならそれほど神経質ではないと思われる。そういう山の林道で地元の人と普通にあいさつしてすれ違ったこともあるので、万一怒られたら丁寧に対応してもらおうように参加者にお願いしておけばよいと思う。

8. 実験レースを終えて

今まで菅平高原のロゲイニングは、3時間、6時間、9時間、12時間と少しずつ競技時間を延ばしてきていたが、今までのレースは時間を延ばしてもそれまでのレースの延長という感じであった。しかし24時間の競技を体験してみたことは従来の12時間のレースの延長ではないということ。作戦、時間の流れ方など24時間になり独特の雰囲気が出てきたように思った。チームメンバーとのコミュニケーションや作戦の修正などアドベンチャーレースに近い感覚があり、がんばって走って体力勝負・・・だけではない世界に突き抜けたと感じた。誰もが参加できる24時間レースというのは困難にぶつかることもあると思うが、開催する価値のあるものであることを確信することができた。なんとか来年(2011年)に24時間の部を開催できるように準備を進めていきたいと考えている。

実験レース開催にあたり、ご協力いただいたみなさまに感謝いたします。

「ホテル白樺荘」様、「日本ロゲイニング協会」様、「パルコール婦恋スキーリゾート」様。サポートスタッフの森本泰介さん、馬場満裕さん。そして選手のみなさん。

【付録】 競技レポート（菅平高原 24 実行委員会チーム）

ロゲイニングの 24 時間実験レースを菅平高原で開催した。今回は日本で初となる 24 時間フルロゲイニングの開催に向けた実験である。コントロールの設置はおこなわない簡易運営で実行委員長である自分も出走してしまう。チーム名は「菅平高原 24 実行委員会」24 時間山をさ迷うパートナーはいつも菅平高原のレースのスタッフをしている H 詰さんとひろっちだ。



21 日朝 8 時。出場者が集まってくる。今回は実験ということで出場資格をきびしく制限したため実績のある 7 チーム 16 名の競技者が集まった。8 時 15 分から競技説明と地図の配布をおこなう。8 時 30 分から各チーム地図を広げて 9 時のスタートまで作戦を考える時間。地図は 25000 分の 1 で A3 サイズが 11 枚と圧倒的な広さ。今まで開催してきた 12 時間の部だとこのサイズの地図なら 3 枚程度なので広すぎるくらい広い。それでもせっかくの 24 時間なので、あっと驚くものを出したかった。おそらく一番遠いコントロールに行くことにしたら、寄り道なしでそこに行って帰ってくるだけでも 24 時間かかるかもしれない。

いつもはロゲイニングのスタート前作戦時間は 10 分～15 分程度だが今回の場合 30 分でも全然足りなさそう。スタート 10 分前になり実行委員会チームがどのように行くかを決める。実行委員会は基本的には参加者と点数を競うのではなく下見ができていない場所や危険かもしれない場所を重点的にまわる予定。スタート 1 分前になってもどのチームも地図を並べて途方に暮れている様子（笑）どうみても定刻通りに出発できそうにないが、スタート時刻の 9 時が近づいたので一応カウントダウン。9 時ちょうどに実験とはいえ日本で最初の 24 時間ロゲイニングがスタートした。いつものレースならスタートの掛け声と共に競技者がいろいろな方向に散っていく光景が見られるが今回はスタートしても誰も動かない（笑）

5 分 10 分と時間の経過とともに少しずつスタートしていく。実行委員会チームも 9 時 10 分ごろに出発。最初はゆっくり走りながら大松山を目指す。標高 1300m の高原で、まだ午前 9 時過ぎなのに暑い。これから真田町の市街地に降りて行ったらどんな暑さなんだと不安になる。汗びっしょりになりながら大松山に到着。風が吹けば涼しいし根子岳・四阿山がきれいに見えていて気持ちがいい。

ここから大松山の西側斜面の途中にあるはずの高圧電線のメンテナンスのための小道に向かって藪こぎ降下。道に気づかずに降り過ぎてしまうと身動きとれなくなってしまうので慎重に進む。今回は目指す道が高圧電線のメンテナンスの道なので近くには電線があり目印になる。小道らしき踏み跡を発見するがほんとうに微妙な踏み跡で「道？」って感じ。踏み跡を北に向かいコントロール設定場所へ。そこで折り返して大松山の西側を通り抜け真田町に降りて行く林道との合流地点を目指す。不明瞭な道が続き林道との合流はスタートから4時間以上経過してから。4時間もかかってまだ大松山ではこの先の予定が考えていた通りにこなせなくなりそうだった。



林道でTLCチームに出会ってびっくりした。自分たちは藪こぎ探検して時間がかかっているため他のチームはとっくに菅平高原の外へ出ているだろうし、全部で7チームしかいないのでそうそう他チームに会うこともないだろうと思っていた。林道部分は沢になっているが最近大量の水が流れたようで道がえぐられて壊れていたりした。ここは以前MTBで通ったこともあるが今はMTBで通行するのも厳しいと思われる。足場の悪い壊れた林道を歩いて下界の集落へ。移動時間・距離は大したことないと思うがここまで藪こぎなど足場の悪いところばかりだったため早くも足の裏が痛くなってきていた。

歩いたり走ったりしながら集落の中心部に行くとき自販機があったのでそこで休憩。ジュースを買い水を補給。気温は相当暑い。休憩している間に林道で出会ったTLCチームと一緒にいる。次は実行委員会チーム今回の最大の山場と思われる天狗岩と小池のコントロールに向かう。山を登りながら後ろを振り返るとTLCチームも登ってくるのが見えた。この2か所は道がなくどのような状態になっているかわからないため慎重に行かなければいけないが序盤で予定よりも時間がかかっているため日没時間との競争になる。今回はGPSトラッキングと、さらに実況中継ブログに各チームが状況を投稿しているので、だいたいどのチームがどこにいるのかわかる。その情報によると天狗岩・小池に向かうのは実行委員会チームが最初になりそうだった。このタイミングを逃すと夜に行かなければならずそれを考える人はいないだろうと思えたので、おそらく天狗岩・小池に行くのは自分たちと後ろから来ているTLCチームだけになりそうだった。

舗装路である程度登ってから未舗装の林道になる。最初に向かう天狗岩は近くまで林道が行っていないため登りやすい斜面を見つけたら、あとは地形を読んで接近しなければいけない。林道で天狗岩に最接近してしまうと急斜面を登らなければいけなくなるので、ゆるい斜面の場所から林道を外れようとする。登る方角の斜面がゆるくなってきたところに踏み後を見つけたのでそこから天狗岩に続く尾根を登ることに決めた。踏み後に入っていくと林業か何かの赤いテープが木に巻かれ

ていたりして人の手が入っているのがわかる。

ピークから東の尾根へ向きを変えて天狗岩に到着。尾根の先端に小さな岩があるだけだったがその下は切り立った絶壁で真田市街地が一望でき展望が良かった。少し休憩しつつ次の小池に向かうかどうか検討する。すでに夕方になっていて小池に行くとは簡単には脱出できない山奥で日没を迎えることになる。H 詰さんとひろっちは不安らしく（自分も不安は不安だけど）引き返すことも考えていたが明らかに行くことが困難な小池には今回の最大の点数をつけているので、これがもし勝負のかかったレース中であれば多少のリスクは承知で行くはずと思ったので、「行きましょう！」と強く提案して突き進むことにする。それに自分達が引き返した場合、来年本番レースを開催する場合に参加者に自分達のやらなかったことをさせるわけにもいかずコース設定の幅が狭くなってしまう。



先ほど方向を変えたピークまで戻る。このピークから天狗岩までの往復と作戦会議の時間もあるのに後ろから来ていたTLCチームが来ない。どこで迷っているのか、あまり遅れてこのエリアに突っ込んでくると道のない山の中で夜間行動になるので大丈夫かなと少し心配になる。進路を北に変えて尾根を進む。尾根の上は軽く踏み後があり思ったほど歩きにくくない。ときどき踏み後が怪しくなって棘のある植物に引っかかったりする。少なくとも小池までは明るいうちに行きたいとペースを上げる。チームメンバーには自信たっぷりに行こうと提案したものの、こんな山奥で真っ暗になることを想像すると正直なところ怖い。

尾根をたどって思ったよりも早い時間で小池の近くに到着。小池に行くには尾根を外して沢に入って行かなければならない。慎重に方向を決めて小池へアタック開始。斜面を下っていくと行く手にはシダが生い茂っていて生理的に入っていきたくない感じ。少しでも植物の薄いところを選んで少しずつ下っていくと池を発見。17時50分に小池到着！ミッション完了！最大の目的地に到着したことにほっとしたものの、山の最深部にいてまもなく日が暮れる。山は登頂よりも下山時に遭難することが多いと言うから、ここからさらに気を引き締めなければならない。（そんなにオーバーなことじゃないだろうとは思うけど、仲間の「戻ってもいいかも」という意見をさえぎって小池まで突き進んできたので、責任やプレッシャーも感じます）

ここから尾根に復帰した後、2通りのコースが考えられる。1つはさらに進んでエイドを設置してある新地蔵峠のなるべく近くに下山するコース。もうひとつは通ってきたところを戻って真田方面の集落に戻るコース。元来た道に戻るなら確実。進む場合は藪で進めなくなる可能性や戻るよりも山の中を進む距離が長いため日

が暮れたら道迷いの可能性も高くなる。しかし地形図を見ると進む方向には山道を示す点線も書かれている。もし道がはっきりしていれば問題ないが、山奥の道など数年通行されないとなくなってしまうのであてにならない。日没との競争だが落ち着いて作戦を考える。まずは先へ進み地図上の点線の道がほんとうにあるか探索して道が見つければその道を進むし、見つからなければそこから下の集落に向かう道のない尾根をナビゲーションして脱出することに決定する。道のないところ暗闇の中で新地蔵峠に向かってナビするのは難易度が高いのでなしで。

急ぎ足で尾根を北に向かい点線の道のすぐ上のピークへ到着。ここで高度計を確認してから点線の道があるはずの方向へ下りていく。もし点線の道がなく下りすぎてしまうと道迷い遭難になってしまうので神経を使う。木の間から見える夕焼けがきれいだったが、もちろんのんびり眺めている余裕などない。完全に日が暮れてからわずかな踏み後を見つけることなど不可能だから時間との戦いになっていた。高度計で見てこのあたりのはずというところで3人でライトを振り道を探索。すると意外にもはっきりした道・・・というか軽トラックが通行しているようなしっかりした道を発見した。これだけしっかりした道なら地形図に書かれているところまでは道があると思われ安心することができた。安心したところで「そういえばTLCはどうなったかな」と人のことが気になり始めた。ここからは役割分担してH 詰さんとひろっちにライトで道を照らして前を進んでもらい、自分は手元の地図とコンパスの確認に集中し道が行こうと思っている方角に向っているかチェックしながらついていくことにする。道があるからといって適当に進んでしまうと道が地図と違っていて予定外の方向へ連れて行かれてしまう可能性もある。



道は地形図通りに通っていて新地蔵峠に向かう道路に出ることができた。この時点で20時近くになり、新地蔵峠のエイドは21時に撤収してしまうので間に合うかぎりぎりくらい。4km程度の登り坂。全力で歩いてエイドを目指す。もっともエイドに行っても次は食料調達のため真田市街地に向かうのでまた折り返してくるのでレースとしてはエイドをキャンセルしてしまってもかまわないのだがせっかくエイドを設置してくれているので顔見せだけでも。この登りで風邪気味だと言っていたひろっちの体調が悪化してきて遅れがちになる。ところどころで後ろを振り返ってひろっちを待ちながら進む。エイドの閉店に間に合うか微妙な状況だったのでH 詰さんと「エイドに行ったら20時半オーダーストップですとか言われたりして」と話しながら進む。思ったよりも早く20時40分過ぎに新地蔵峠エイドに到着。

新地蔵峠エイドでは、ばばQさんが迎えてくれた。幸いオーダーストップと言われることもホテルの光を歌われることもなくコーラ・おにぎり・どらやきを食べ話

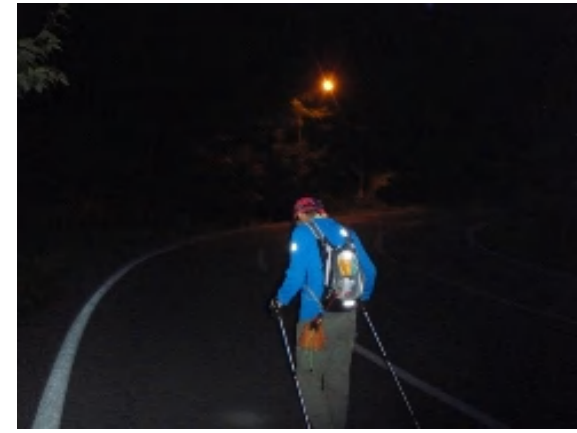
をしながらしばし休憩。気になっていた TLC チームの動向は GPS トラッキングで見ると天狗岩の手前まで行って市街地に引き返したようだった。その後2時間ほど動きがないらしいが、ばばQさんが GPS トラッキング画面を拡大したところ「健康ランドふれあいさなだ館」と書かれたところにマーカーが止まっていて「これは温泉に入ってるねえ (笑)」ということだった。

自分たちの他にエイドにはチームインリン (東北大 OB) が向かっていて近くまで来ているとのこと。少しすると松代側の坂の下から「あったー！」と歓喜の叫びが聞こえてきた (笑) しばらくチームインリンと一緒にエイドでのんびりしているが、ひろっちは気持ち悪そうで嘔吐している。これはちょっとやばいなー、ひろっち完走できないかもなーと思う。チームインリンは補給を済ませると近くの十福の湯に入り足を冷やしてくると言い出発。「露天風呂が気持ちいいから入ってきなよー」と見送る。こちらものろのろと準備をして出発。なんと1時間もエイドで休憩してしまった。

「走るよ？」と声を掛けて真田町に向かって走り始める。10km 近い下り基調のロードになる。とりあえずコンビニまで行って温かい食事をしたい。km7 分くらいでゆっくり走る。ひろっちは調子は悪そうだがついてきている。持ち直してくればよいが。途中でエイドを撤収したばばQさんの車に抜かされた。かなり走って見覚えのある場所を通り「ここってさっき山から出てきたところだよな？」と話す。ここからエイドまでの登り下りと休憩で2時間くらい使っている。

ひろっちが非常に調子が悪そうになり遅れがちになってきたので、ばらけず普通の声で会話ができる位置でかたまって走るように提案する。離れてしまうと様子がまったくわからない。途中のコントロールを通過しながら真田市街地へ。信綱寺コントロールでは実況ブログを見ると蒼穹クラブと数分差だが姿は見えぬ。コンビニ休憩まであと少し千古滝に到着したところで、ついにひろっちも H 詰さんも座り込んでしまった。かなり体調が悪い&足をやられてしまっているようだ。

コンビニで2人の様子を見て H 詰さんは少し休めば行けそうだけど、ひろっちは体力の問題でなく完全に病気なので復活はしないと思い、菅平高原に帰ったばばQさんに電話。ちょうど寝付いたところだったようだがひろっちのピックアップに来てもらうことにする。本来の競技ではメンバーが1人でも欠けたらチームはリタイアになるが今回の実行委員会チームは今後のために24時間を経験するというのが大事なミッションなので自分と H 詰さんだけでレースを続けることにする。コンビニ休憩中に温泉経由のチームインリンと烏帽子岳から降りてきた MileStones に会った。この2チームはこれから大松山に抜ける林道で菅平高原に向かうようだ。広大な場所に7チームが散っている割には夜間の補給で真田のコンビニに来るチームが多く遭遇確率が高い。



2時ごろコンビニを出発して国道を歩いて菅平へ向かう。もうひろっちがリタイアしてしまったしコントロールの通過は考えなくてもいいかなと思ったが、いちおうやるべきことはやっておくかと思い長谷寺に寄り道。思いのほか国道から急な登り坂が続きだんだんばててきた。H 詰さんに「もう少しゆっくりでお願いします」とペースを落としてもらう。長谷寺から国道に戻る途中で眠くなり H 詰さんの歩きについていけない。「少し眠らせてください」と言ったものの横になって寝れるような場所があるわけでもなく……。国道に合流すると交差点の周辺は歩道に縁石やガードレールがあって車の危険がなさそうだったので「ここで寝ましょう！」と言いガードレールの影へ。15分寝ることにしてアラームをセットしアスファルトに転がる。一瞬で意識を失い次の瞬間にはアラームが聞こえ H 詰さんに鳴ってるよと起こされた。「え？もう？」という感じだったが、とりあえず行ってみますかと体を起こす。

15分の睡眠でも体の調子が良くなりしっかり歩けるようになった。H 詰さんは眠らずに足のケアをしていたようだった。平らなところや軽い登りは走り菅平を目指す。夜になっても蒸し暑かったが明け方近くになって空気がひんやりして気持ち良くなってきた。途中の自販機でコーヒーを購入し一気に飲み干す。菅平湖への登りで H 詰さんが「眠くなってきたー」と言う。「少し寝ますか？」と聞いたが「行ける所まで行く」とのこと。少しずつ明るくなってきて菅平湖ではすっかり朝になった。

菅平湖の近くの林道にあるコントロール通過のために久しぶりにオフロードへ入る。足の裏が水ぶくれでばんばんになっているのでごつごつした石の上を歩くと激痛が走る。途中で耐えられなくなり「治療します」と声を掛けて止まってもらう。しかしファストエイドはひろっちが持っていてリタイアで回収されてしまったので治療道具がない。ナイフで水だけ抜く。それから靴下と靴を履くが……。もっと痛くなった！傷口から靴下にしみ込んだ汚れた水分がしみるのか水抜き前以上の刺激的な痛みで襲われる。しかしもうどうしようもないので気合いでがまん。コントロールを通過して国道に戻る途中またも眠くなったので H 詰さんに「少し寝ますか？」と聞くと H 詰さんは眠ることなく眠くなくなったらしい。でも自分がどうしても眠いので少し休憩にしてもらって道路に横になる。また一瞬で目を覚まし時計を見ると10分経過。15分のアラームが鳴る前だったが眠くなくなったので出発する。

唐沢の滝前でトイレに寄っていると真田方面からハライチが登ってきた。唐沢の滝に寄ってよいよ菅平高原内へ。実行委員会チームは明け方から何度か実況ブ

ログを更新しているが前半はたくさんあった他のチームの更新がない。余裕がなくなってきたのか？7時過ぎに白樺荘からも近いデイリーに立ち寄り。もうゴールまで2時間弱でゴール後に歯を磨きたかったので歯ブラシを買っておく。アイスを食べながら出発。ゴール前にあと2つコントロールを取るつもり。歩いてスタート・ゴールのシュナイダーゲレンデスキー小屋の下を通る。ばばQさんが窓から「ラーメンあるぞー」とか誘惑してきます。スキー小屋を通過して峰の原高原自然体験センターへ。到着するとなんと自然体験センターはなくなって更地になっていました。



制限時間の9時まであと40分程度になり「急がないとダボスの丘のコントロールに寄れないかも」ということで少し走る。スキー場のダボスの丘への登りに入ったところで9時に間に合うと確信しペースを落として歩く。ダボスの丘からスキー小屋に降りてゴール。8時41分、タイムは23時間41分で休憩時間も多かったけど、なんとか24時間の競技をこなすことができた。成績のほうはゆっくり移動が多かった割には他の上位チームとの得点差は少なく実行委員会として恥ずかしくない結果で終わった。その要因は天狗岩と小池が未調査で高得点だったため他のチームがリスクを避けたが実行委員会は調査も兼ねて突入し思ったよりは歩きやすい場所だったため、そこで点数を稼ぐことができた。けっきょく天狗岩と小池に行ったのは実行委員会だけで本番レースのときには他の競技者にも小池に行ってほしいなあと考えた。初級者が行くと本気で遭難しそうだけど・・・。